

地域と教育のつながりについて

ー田野畑村の現地から学んだことー

1 田野畑村とは

約3,000人 人口	**約156 km²** 面積
各1校 小学校・中学校	**約5.5時間** 東京からの所要時間

位置：岩手県沿岸北部，盛岡駅から約100km（鉄道で約3時間）。少子高齢化に伴う統廃合を経て，小・中学校は各1校

水産業：外洋の荒波にもまれて身の締まった養殖ワカメ・昆布。三陸の天然昆布を食べて育つ，身の詰まったウニ・アワビ

酪農：暑さに弱い乳牛に最適な環境で，良質な生乳から作るたのはた牛乳・アイス・ヨーグルト

観光：高さ200mの断崖が続く北山崎，5層の垂直な崖が連なる鵜の巣断崖





2 田野畑小学校

児童89人 | 7学級 | 教職員20人

少人数を生かした学び：一人ひとりに目が届き，個別に関わる時間を確保しやすい。児童は授業で積極的に発言し，作品や課題を丁寧に仕上げる

誰もが学びやすい環境：教室での授業参加が難しい児童も，別室のモニターから教室とつながって学べる

安心して過ごせる学校：寒さ対策の二重ドア。東日本大震災を経て，復興教育に力を入れ続けている





3 田野畑中学校

生徒73人 | 5学級 | 教職員20人

部活動：野球，バスケットボール，陸上，卓球，ソフトテニス，伝統芸能の太鼓

生徒の声を生かす：学内アンケートで生徒の声を取り入れる。生徒会は校庭の草むしりを競争形式の大会にし，事務員の負担を減らしている

仮式会社Comaru（2015年～）：生徒会長が社長。村の資源で商品を手作りし，道の駅で販売

- やんもうど：木工
- さとうど：エコバッグ
- はんもうど：しおり
- たのはたーど：広報





4 村の取り組み

スモールスケールメリット
エリアメリット（地域資源の魅力）
→ 一人ひとりの可能性を引き出す教育
→ 田野畑学（地域を舞台にした探究）
→ 仮式会社Comaru（生徒の社会参画）



田野畑学：地域をフィールドとする探究活動を通じて，自ら人生の舵を取り，主体的に社会へ参画・貢献できる人を育てる

教育立村：仮式会社Comaruは二つのメリットを体現する村の代表的な取り組み。教員には現状把握から課題解決，行動，評価までを主体的に行う資質が求められている

5 学んだこと

1. 少人数の利点を生かし，生徒の自主性を尊重しながら一人ひとりに寄り添う指導が行われていた
2. 教室で学びにくい児童や言葉を発することが難しい児童にも，それぞれに合った学習方法と環境が用意されていた
3. Comaruは今では企画から製造・梱包，販売やPOPの工夫まで生徒が担い，地元への理解と誇りを深めるきっかけになっている
4. 学校は授業の場であるだけでなく，安心して過ごせる環境を整え，震災の経験を次の世代へ伝える役割も担っている

6 経済学的考察

人的資本への投資 → 田野畑学で郷土愛 → 将来，村へ還元 → 地域活性化

「教育立村」という教育を軸に村づくりを行っている田野畑村では，まさに教育は「人的資本への投資」である。田野畑学を学んだ児童が，将来的に郷土愛をもって田野畑村に還元するという仕組みとして成り立てば，地域活性化につながるのではないかと考える。

7 まとめと御礼

小さな村であることと地域の資源を強みに変え，学校と村が一体となって子どもを育てている

謝辞：田野畑村教育長，教育次長をはじめ，村役場の皆様，小中学校の皆様に深く御礼申し上げます

